

## 平成 29 年度第 2 回高知県医療関連感染対策地域支援ネットワーク会議の要旨

日 時：平成 30 年 2 月 1 日（木）18：30～20：30

場 所：高知共済会館 3 階 藤

出席者：委員 11 名

議事の前に、平成 30 年度より委員となる予定の高知県歯科医師会の八井田常務理事に、今回の会議にオブザーバーとして参加していただくことについて、事務局より説明があった。

### 議 事

#### 1 高知県医療関連感染対策地域支援ネットワーク事業平成 29 年度実績及び平成 30 年度事業計画について

事務局より、資料に沿って説明があった。

<委員からの質問・意見等>

①（委員）医事薬務課ホームページの医療関連感染対策のバナーにカツオ人間のキャラクターを貼ることについて、医療関連感染対策相談対応事業パンフレットのキャラクターをそのまま使用することの了解をもらったので、バナーの画像を山西金陵堂の担当者を送ると許可を得ることができると思う。

②（委員）医療関連感染対策相談対応事業パンフレットのカツオ人間の背景を変える等、何かを変更してはどうか。例えば、安芸の方の景色にする等はどうか。  
→希望の背景の写真があれば 2 月末までに事務局にデータを送る。

③Q：（委員）避難所の災害時の感染対策は医事薬務課ではなく、どこが担当なのか。どこがマニュアルをつくるのか。

→A：（事務局）県では地域福祉部が担当。避難所の運営、具体の計画は市町村が作成。県保健所には地域支援室があり、市町村の災害対策を支援している。

④Q：（委員）災害時には保健所を中心に各エリアのネットワークで感染対策は動くことになると思うので、各エリアでの検討を行い、ネットワーク会議で全体を集約することになると思うが、医療救護計画の本部会議の進捗状況はどうか。

→A：（委員）分かれていた国の保健医療対策（保健・医療）を一つとし、各都道府県、中核市、保健所設置市も一つにする方針が 7 月に出されている。3 月の本部会議では、まだ全部は無理だが、今後、保健医療活動の総合調整を行うための本部を設置する形での検討がされる見通し。そのなかに感染対策も入ってくると思う。市も県と組織立ては同じ。来年度あたりに災害救護計画の見直しが行われるだろう。

⑤（委員）サーベイランス研究会では、昨年度 30 数施設の大腸菌と緑膿菌のアンチバイオグラムと AUD のデータを評価し、今年度も 3 月 17 日に報告会を行う。蓄積されたデータを連携し活用できたらいいのではないか。

⑥Q：（委員）各エリアで医療機関の耐性菌の状況を把握し、集約して全体で情報共有することをできないか。幡多エリアでは既に行っているか。

→A：（委員）加算 1 と 2 の医療機関では、耐性菌、抗菌薬使用状況を確認してサーベイラン

ス研究会と近いことを行っている。

⑦Q：(委員) 加算1と2の医療機関のデータを情報共有することは可能かと思うが、医療センター、高知赤十字病院、高知大学医学部附属病院、あき総合病院では行っているか。

→A：(委員) 抗菌薬のAUDと耐性菌の検出率を出しているが、患者の背景が違いすぎるので横並びに比較はできない。それぞれの経時的な変化を議論の1つの突破口にしている状況。

A：(委員) 医療センターと同じで、データを情報共有することは可能と思うが、やはり今は背景が大分違うので解釈が難しいと思う。

A：(委員) 全国の国公立大学病院は、背景が同じような環境なのでサーベイランスを比較できるが、加算1でも役割が違う病院のデータを比べることの意義がどれだけあるのかと思う。加算2も年に1回はデータを出してもらっているが、ばらつきがあるので、あまり役に立たない。加算2の病院にとっては、あまり耐性菌と抗菌薬というのが全体の感染管理での意義は少ないという印象を持っている。

A：(委員) 29年度の途中から合同会議に参加している病院にデータをもらい始めたところ。

⑧(委員) 高知県院内感染対策研究会が薬剤メーカーの関わりがなくなることになったので、この研究会の取組を医療関連感染対策地域支援ネットワーク事業にまとめられないか。

⑨(委員) 高知県院内感染対策研究会は、元々製薬会社が年2回、3時間位の講演会をすることがメインだった。1年位前からネットワーク会議の拠点病院が集まって活動するようになら変わった。この取組を継続するために、ICNネットワークの会を拠点病院の会にしてはどうかと思いつき、メーリングリストで送信した。

⑩(委員) ICNネットワークの会は、ネットワーク会議が終わった後、1ヶ月以内くらいで集まっている。その内容は、ネットワーク会議の報告だけで、現実的に何かを検討して決めるということはない。Q&Aもやっているが、会の中でするのは割り振りだけで、それぞれが考えてメーリングリストで意見をもらっている。プライベートでICNが集まることはできるので、ICNの会としてなくてもいいのかなと最近思っている。Q&Aについても、看護師だけへの質問ではないが、ICNの会ということなので、ICNだけでやっている。そのことなどを踏まえると、拠点病院の会に入ってもいいのではないかと思っている。

⑪(委員) ICNネットワークの会は発展的解消をして拠点病院の会に合体する捉え方でいいか。その場合、ICNネットワークの会で来年度どのようにするか決めるということで、有瀬委員に一任していいか。

⑫Q：(委員) 拠点病院のネットワークの会のイメージは分かるが、どのように集まるのか、誰が行くのか、何を議論するかが見えない。例えば検査技師や薬剤師も同時に集まるとなると集まれなくなるリスクもあると思うが、どのように考えているか。

→A：(委員) とりあえず、現時点の加算1の集まりと高知県院内感染対策研修会のメンバーをシンプルにするイメージ。いろんな事情があると思うので、議論して決めていただきたい。

⑬Q：(委員) 医療関連感染対策相談対応事業のパンフレットのフロー図もICNネットワークの会がなくなった場合は修正が必要。ICNの写真があって、「私たちがお答えします」のページは素晴らしいと思うが、これも変更になってしまうのかと思うがどうか。

→A：(委員) 素晴らしい。看護師は多いので質問もあるし、看護師なら答えやすいというのもあるが、看護師が全部背負うものではない。ICNネットワークの会の今後について意見をということで出したので、今すぐというわけではない。3月にICNネットワークの会でICNが集まるので、皆に意見を聞きたいと思っている。

→(事務局) 組織を見直すにあたっては、各会の役割分担を明確にすること、予算面の問題がある。

→(委員) 拠点病院の会の内容として、参加するとQ&Aに答える、エリア研修の資料ができる等いろんなものができる可能性があるし、参加した人の指導力がアップする効果がある。

## 結 論

- 医療関連感染対策のバナーについては、カツオ人間入りのバナー案を作成し、了解を得た後、ホームページに掲載する。
- 医療関連感染対策相談対応事業パンフレットの変更については、2月中に表紙の写真等が集まれば、事務局、会長、副会長で相談して決める。

## 今後の検討事項

- 災害時の感染対策支援ワーキングについては、災害医療救護計画の進捗状況に応じて検討していく。
- 加算1と2の医療機関のデータを情報共有することについて、合同カンファレンス等で取りまとめているサーベイランスのデータを各拠点病院から提供してもらう。
- ICNネットワークの会を拠点病院ネットワークの会にしたいという提案については、3月のICNネットワークの会でICNの方の意見も参考にしながら、各会の役割分担を明確にして議論していく。

## 2 高知県医療関連感染対策相談対応事業について

<説明(委員)>

- ・CREは腸内細菌なので、排泄容器の確実な洗浄、乾燥を徹底することと、水回りの整理整頓、乾燥に重点をおいて報告書を書いた。
- ・急性期の病院で救急の多い病院はハード面でも投資する必要がある。乾燥機とベッドパンウオッシャーを導入すると良い。

<委員からの質問>

①Q：(委員) 培養の方法で検出感度の高い低いというのではないか。

→A：(委員) 検出感度は検体のコンディションに依存する。CREは便培養が一番スクリーニングには適している。培養検査が県下のどの施設でもできる環境が必要。当院では1時間半位で目途がつくが、設備が整わない施設が多いので、完全には拾いきれないのが現状と思う。

## 3 医事業務課ホームページの掲載内容について

事務局より、資料に沿って説明があった。

<委員からの意見>

- ①（委員）医療関連感染対策Q&Aの「ウォシュレットノズル」は登録商標ではないか。

## 結 論

- 医療関連感染対策Q&Aの「ウォシュレット」は「洗浄トイレのノズル」とする。
- 医療関連感染対策Q&Aで気づいたことがあれば、事務局に連絡する。

## 4 エリアネットワーク活動について

<報告>

### ①安芸エリア（安芸福祉保健所）

- ・研修会の内容は、「洗浄・消毒・滅菌のいろは」として講義と実技を行った。実技は手洗いチェッカーを用いて器具の洗浄方法について、指導前後を比較し確認を行った。滅菌バックを見て滅菌不備の確認を行ったり、消毒薬の作り方、保管の仕方の講義、耐性菌の現状や対策についての情報提供を行った。
- ・アンケート結果では、説明したい内容が多く少し時間を超過したため、設定時間が少し不適切との回答があったが、内容については肯定的な意見が多く見られた。院内感染対策で困っていることとしては、個人防護具、ノロウイルスの対応等の意見があった。
- ・次年度以降もアンケートの意見を踏まえ、あき総合病院と協議し、より顔の見える関係作り、実技等により地域全体で院内感染に対応できる関係性を深めたい。
- ・（廣瀬委員）実習は講習会で一番必要と実感している。

### ②中央東エリア（委員）

- ・平成29年度は2回研修会を開催。1回目は、「手指衛生、個人防護具、環境整備、器材の洗浄・消毒などについて」で基本的な内容で実施した。器材の洗浄・消毒については、次亜塩素酸ナトリウムの汎用が見られたので、グループワークを行った。2回目は、「インフルエンザ対策とノロウイルス胃腸炎対策」のテーマで実施した。11月9日なので、丁度これから流行するというところで、このテーマを使ったが、標準予防策と感染経路予防策を理解して使い分けてもらうことを意図としている。
- ・アンケートは、グループワークについて、「普段話をしない他職種の人と話ができて良かった」という意見と、「グループワークは苦手」との意見があった。最初は静かだが時間がたつと和気藹々とディスカッションができていたので、今後もグループワークは続けたい。
- ・県全体の研修会は参加者が知識を得る講演、エリアは近隣の病院の顔の見える協力関係ができるよう、お互いに自分達の病院の現状を話し合う場として企画した。インフルエンザ、ノロウイルスとタイトルに書いたので、多くの参加があり良かった。

### ③高知市エリア（高知市保健所）

- ・高知市エリア医療関連感染対策地域支援ネットワーク検討会は、平成29年度は6月、10月に開催し、あと3月に予定している。研修会は、検討会で意見を出し合い10月22日に開催。内容は医療関連感染対策地域支援ネットワーク事業の説明、「手指衛生」「針刺し予防」「物品の管理」のテーマの講演後、グループディスカッションを行った。
- ・研修会の案内は診療所264機関に案内し、52機関85名の出席。参加割合は無床診療所が70.4%で、昨年度の57.8%から増えている。職種は看護師が多いが、医師や臨床検査技師等の参加もある。昨年度参加のない方が73.2%で、研修会への参加者の広がりが分かる。

医療関連感染対策相談対応事業のパンフレットを見たことがない方が60.6%で、事業の周知の良い機会になっている。講演内容は90.1%が「とても参考になった」と高評価を得た。「各医療機関の現状が聞けて勉強になった」「日々の感染対策の見直しができた」と高評価を得た。次年度も意見を生かし研修会を発展させたい。

#### ④中央西・須崎エリア（委員）

- ・事前のアンケートで要望が多かったノロウイルス対策の講義と実技の研修会を行った。日頃の感染経路の遮断が耐性菌対策、ノロウイルス対策にも必要なため、標準予防策、手指衛生、PPEの使用の講習後、PPEの使用法と吐物の対応の実技を行った。須崎も同じような内容で2月9日に予定している。
- ・アンケートでは、インフルエンザ対応に忙しい時期なので、時期をずらした方が良かったとの結果も見られた。どの位、各施設で標準予防策が実際にできているか分からないので、今後はそのようなことをディスカッションして、足りない部分はどこにあるか見ていきたいし、関係作りもしたい。

#### ⑤幡多エリア（委員）

- ・11月30日木曜日2時から3時半の時間設定で研修会を行った。当初のターゲットは介護施設の介護士としていたが、アンケートを見ると介護士は3割で、5割はリーダー的な役割をしていると思われる看護師だった。内容は、感染症の流行状況、制度、肝炎等について保健所からの話の後、「手をきれいにしましょう」という話だけを40分位かけて私が話し、その後、ICNの岡本さんが吐物の処理の実技を行った。
- ・評価としては、実技を取り入れた点は良かったとのことで今後も続けることと、繰り返しやってほしいとのことで、ターゲットをどこに絞るか保健所と相談し来年も取り組みたい。来年度も内容は手のことを話すと思う。

#### <委員からの質問・意見等>

①Q：（委員）1つは全体の研修会の年1～2回とエリア研修会の役割分担をどうするのか。2つ目はエリア研修会の内容をエリア毎に変えた方がいいのか、それとも1つでいいのか悩んでいて、ご意見を伺いたい。私が考えているのは、全体の500人の研修会は知識の伝達場として講演を行う。エリア研修会は少人数なので実技とグループディスカッションを行う。エリア毎に内容を変える必要はないのではないか。病院、診療所が必要なことは一緒ではないかと想像する。

→A：（委員）幡多では話をする中で、やはり手のことが一番大事ということで、それしかやっていない。標準予防策も一瞬触れるだけで、すぐ手の話ばかり30～40分する。繰り返すことで参加者も入れ替わるので、いろんな施設の方に「手指衛生が大事なのできちんとしましょう」と繰り返すことが大事と思って、他のこともやろうと思えばできるが、普遍的な手のことを続けていこうと思っている。

A：（委員）高知市では診療所をターゲットにしている。ターゲットを選ぶのも1つの方法だし、全体で1つのテーマとしてというのも1つの方法と思う。

## 結 論

- 来年度のエリアネットワーク活動もそれぞれのエリアでの取組を継続する。

## 5 高知県医療関連感染対策研修会について

事務局より、資料に沿って説明があった。

<委員からの質問・意見等>

① (委員) 今すぐは難しいと思うので、院内感染対策研究会のリストを参考にメーリングリストで出してもらい、プラスアルファで適切な人を挙げてもらい、そのなかから選ぶ方向でいいか。

② (委員) 1回は確定なのか。非常に残念。

③Q : (委員) ネットワーク会議の委員、ICNを講師にして、無料の会場ならできるのか。

→A : (事務局) 予算面の問題もあるが、事務量の問題もある。大事な仕事というのは分かっているのですが、なるべくやりたいとは思っているが、エリアの研修会が充実してきているので、全体の仕事の中で、研修会を1回にする案となっている。

④Q : (委員) 医事薬務課が弱気だが、保健所からは「そんなことでいいのか」という意見はないか。保健所や拠点病院が手伝うのであればできる。先ほどの話で、ICNに負担がかかり過ぎるのは駄目だが、医事薬務課に負担がかかり過ぎるのもいけないので、負担を分散して2回位はやりたいのが皆の意見ではないか。予算は医療再生基金でできないか。

→A : (事務局) できない。

(委員) 講演会は医療介護総合確保基金。ほとんど凍結。

→Q : (委員) 県医師会も出せないか。

→A : (委員) 年に何回か医療安全の講習会は開いているので、出せるかもしれない。

A : (事務局) 医療関連感染対策の研修会とは別に、医療安全管理の研修会もしていて、それに加えて厚労省の研修会の募集も担当がしていて、申し訳ないと思いつつ1回の提案をさせていただいた。

→Q : (委員) マンパワーが足りないことは健康福祉部長に言っているのか。

→A : (事務局) どこも同じ。

### 結 論

- 平成30年度高知県医療関連感染対策研修会は、メーリングリストで適切な講師を検討する。
- 研修会の実施内容等については今後検討する。

## 6 その他

<説明(高知県歯科医師会)>

- ・高知県歯科医師会の院内感染対策の取組としては、平成19年度の第5次医療法改正後から医療安全管理が重要視されたので、平成20年度から高知県より歯科医療安全管理体制推進特別事業が委託され、院内感染対策を必須とした医療安全講習会を年2回開催している。これにより施設基準の対応や立入検査の年2回の従業員の講習会の受講の項目にも対応できている。毎回300人前後の出席で、歯科医師が半分強、歯科衛生士が半分弱となっている。年2回の研修会は県に大変お世話になっている。
- ・今年度も厚生労働省、日本歯科医師会主催で歯科医療関係者感染予防講習会を開催し、出席者は300名を超えていた。歯科医療従事者に対するエイズや肝炎等の感染症予防に関する内

容で、歯科保健医療の安全を図った。

- ・平成 29 年 9 月に厚生労働省より歯科医療機関における院内感染対策における通知があり、周知をしている。
- ・立入検査が平成 29 年度で一回りしたので、現在、医事薬務課と自主管理点検表の見直しを行っている。院内感染対策の点検項目は増える予定。
- ・来年度の診療報酬改訂で院内感染対策がより一層求められているので、これからますます院内感染対策に関して、歯科医師会も徹底していかないといけない。
- ・日本歯科医師会でも HIV 患者の診療のネットワークを作ろうということで、アンケートをとっている。高知県は中核病院、高知大の拠点病院とネットワークを組んで、非公開だが HIV 患者が各診療所で受診できる体制をとっている。四国では高知県だけで、中四国でも広島と高知県だけがネットワークを組んでいる。口腔外科の山本先生の尽力でネットワークが組めるようになった。

<委員からの質問・意見等>

①Q：(委員) 講習会に医事薬務課は関与していないのか。

→A：(歯科医師会) 関与していない。

(事務局) 健康長寿政策課が担当。

②Q：(委員) 歯科で針刺しが起きた時に役立つよう、健康対策課から HIV の予防薬を多くの医療機関に配布し、予防服用マニュアルを作っている。歯科医師と我々も一緒に連携していると思うが。

→A：(歯科医師会) 11 月に健康対策課から来たと思う。2 時間以内が推奨されているので、会員に自分が一番近い予防薬を置いてある医療機関がどこにあるかを確認するように周知はしている。

<説明>

事務局より、高知県医療関連感染対策地域支援ネットワーク運営要綱改正について、資料に沿って説明があった。

<委員からの質問・意見等>

①Q：(委員) 運営要綱のなかの波線は前からあるのか。

→A：(事務局) 波線の箇所の説明が下にあることを示している。

→(委員) アスタリスクか何かで分かりやすくするように。

## 結 論

- 高知県医療関連感染対策地域支援ネットワーク運営要綱の改正は了承された。改正時に合わせ波線の表示の変更も行う。

## 事務連絡

- ・平成 30 年度第 1 回医療関連感染対策地域支援ネットワーク会議の日程調整は、メーリングリストで行う。